

## 人が主役の街づくり～個人商店を応援する取組みについて～

### 1 昭和と令和の買い物風景

「おじちゃん、玉ねぎください」

「お遣いかい？偉いねえ」

「いくら？」

「170（万）円になります（笑）」

「じゃ、これをお願いします（200 円を手渡す）」

「じゃ、おつりが 30（万）円ね（笑）。そして、これはおまけだ！」

「おじちゃん！ありがとう」

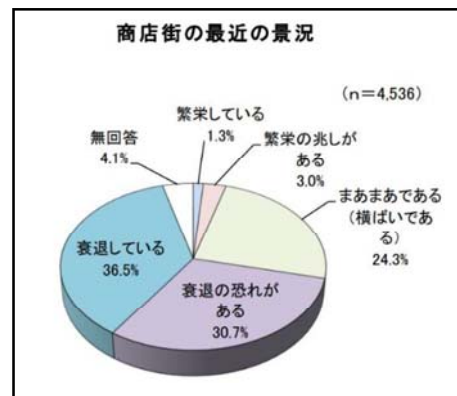
幼少の頃のことで漠然としか覚えていませんが、なんとなく記憶している昭和 40 年代のお遣いに行ったときの八百屋の店主との会話です。店主は店主なりに子供を笑わせようと精一杯の冗談で言ってくれていたのかもしれませんが。

時代は変わり、地方都市では個人経営の商店や商店街の利用がめっきり減り活気が無くなり、代わりに大きなショッピングセンター、スーパーマーケットや便利なコンビニが増えました。大店舗法の改正、撤廃の影響も大きいのかとも感じます。確かに大きなお店では無料駐車場や館内の空調設備も完備されて快適かつ楽しく買い物や食事が出来ます。自動車社会の典型的な成功例と言えるのでしょうか。

ただし、それは街が賑わうというよりも、店舗が賑わっていると私は感じています。

さらに今日ではわざわざ店舗に行かなくてもスマホのボタンを押しさえすれば、翌日には自宅にものが届くという便利な社会にもなりました。

生活スタイルの激変により、駅前などの商店街はシャッター街となっている地方都市は少なくありません。店主たちも高齢化し、店の未来に希望を持たないため、後継ぎ問題も深刻なようです。



中小企業庁による令和 3 年度  
商店街の実態調査より

### 2 変わる周辺環境

時代の変化によりライフスタイルが変わることはいつの時代でも少なからず起こります。戦後の復興から始まった自家用車普及と道路網の延伸による経済活動が日本を豊かにし、我々はその自動車社会を満喫しています。自動車での移動が便利で楽しいことは多くの人が認めるのですが、我々の住む世界を別の視点で顧みれば、地球温暖化による気候変動が顕在化しており、また少子高齢化が進む中、今度は自動車の運転が出来ない高齢者が増えて、日常生活における買い物難民が懸念されています。現時点でこれまでのライフスタイルそして街づくりについて一度立ち止まり、確認および検証を行い、これから進むべき方向を真剣に考えなければならない時だと感じます。

### 3 最近の子供たちに感じること

私はもうすぐ還暦を迎えますが、上記以外にも不安視していることがあります。それが冒頭で表記した私が幼少の頃に買い物において体験した経験と、私の子供たちが体験した経験の違いから感じることです。私の娘はスーパーで品物を選び、レジに並びICカードでお遣いを無事にこなしましたが、店員さんと話すことは無かったのです。科学的な根拠はありませんが、幼児が少しずつ大きくなる成長過程において、買い物を通じて受ける影響について個人的な考えを述べてみたいと思います。

まず、幼児は通常であればお母さん、お父さんを主とする家族からコミュニケーションを始め、その後は同世代の友達との交流を少しずつ広げます。幼稚園や保育園、小中学校、高校、大学、社会人。それまで知らなかった世界や他人と触れ合うことで人間として成長していきます。

幼児が家族でもなく友達でもない関係性の全く無い他人と初めて向き合う場面が「買い物」です。買い物をするのだから「…をください」「いくらですか?」と自ら意思表示をしなければ、何も買うことが出来ず、幼児にとって少なからず勇気が必要となります。そして、店主から「いくらになります」との返答をもらい、優しい言葉をかけてもらうことで、少しずつ親しくなり雑談や冗談を交わすなど、コミュニケーションを学んでいくので



す。大人も含めてひきこもりとなっている子供が増えていると聞きます。核家族化やひとり暮らしの増加でコミュニケーションを取る機会が縮小しています。現在、買い物についてはレジ業務の効率化のために現金を扱わなくても良いキャッシュレス化、そして店員の対応さえ必要がないセルフ決済の機械の普及が進んで、買い物の場面で発生する人と人との交流はさらに少なくなっています。少なくなってしまった“駄菓子屋”は子供たちがデビューする社交場であったかもしれません。

Wordで描くイラスト例1

この世界では目に見えることよりも見えないことの方が大事なことがあります。大人たちは自分が生きるために技術開発など、様々な努力や工夫を行って生きており、誰もそれを咎めることはできません。しかし、便利さを追求し、経済的な利益のために過度な競争を行った結果、我々大人が想像できない目に見えない影

響を子供たちが受けているかもしれません。コミュ障と呼ばれる人がコロナ禍を契機に増えたという分析もありますが、幼少期に行う重要なコミュニケーションの機会を奪われたからという専門家もいます。

家庭内でもスマホやゲームなどのコンテンツの普及とともに、コミュニケーションが苦手な子供が増えることで不登校・ひきこもり、発達障害などが発生しているとすれば、現状のような街づくりが進めば、本末転倒な社会を作ることにもつながりかねません。

建物をつくることを主としている土木技術者（シビルエンジニア）ですが、今後は子供たちが健全に育つような環境を意識して違う視点で街づくりを考えていくことが必用です。

#### 4 試してみたい取組み

個人のお店を応援したいと思っています。スーパーマーケットやコンビニも利用はしていますが、全ての個人商店が無くなった世界は想像したくありません。個人商店にも色々あり、やる気もなく潰れるのも時間の問題だと感じるお店もあります。しかし、中には店主が自分で努力、工夫を凝らして作り上げた貴重な店もあります。そして、子どもたちを優しく見守ってくれているお店もあります。

確かにフランチャイズ化されたチェーン店に比べると個人商店は利用しづらいと感じます。店のドアを開けるまでどのような人がいるのか、どのような物を販売しているかが分かりにくいからです。最近は様々な SNS により「進化した口コミ情報」を発信しているお店も増えてきましたが、それでも個人商店が不利な場面は多いと思います。

私は趣味として時々お気に入りのお店と店主をイラストで描かせてもらっています。店主の中にはそのイラストを気に入ってくれ、店の入口や店内に飾ってくれているお店もあります。そして、イラストがきっかけとなりお客さんと店主が会話を始めることにもつながっていると聞いています。



Wordで描くイラスト例2

「店に入らずとも、店主がどのような人か想像がつく」ようにもっと多くの店にも同じようにイラストや写真を飾ってもらい、自分の店の紹介そしてアピールをしてもらいたいと思っています、そのような取組みが広まるように仲間を増やしたいと考えています。

#### 5 新しい街づくりビジネスの夢

これからの個人商店の存在を拡大するためには

- ①他店にはない自店だけの魅力ある商品（価格競争力含む）
- ②自店の商品を売り込む営業力および宣伝力
- ③店主の人となりを紹介する

の取組みが必要となります。そして②、③の取組みについて、店主を紹介するイラストは貢献できると考えています。そして、いつかそのようなビジネスが出来ないかと考えています。

また、絵を描く人は多く、絵を描くツールも多種多様です。今回のアイデアのように「お店を紹介してもらいたいという店主」と、「応援するために絵やイラストを描くアーティスト」をつなぐシステム（仲介会社）をつくり繋げていく。お店にあたりまえのようにある「看板」「屋号」「(赤ちょうちん) 照明」と同じように個人店主の紹介イラストが掲示されていて、お客さんと店主が楽しく会話をしながら買い物ができるお店そして街を作りたいと思います。

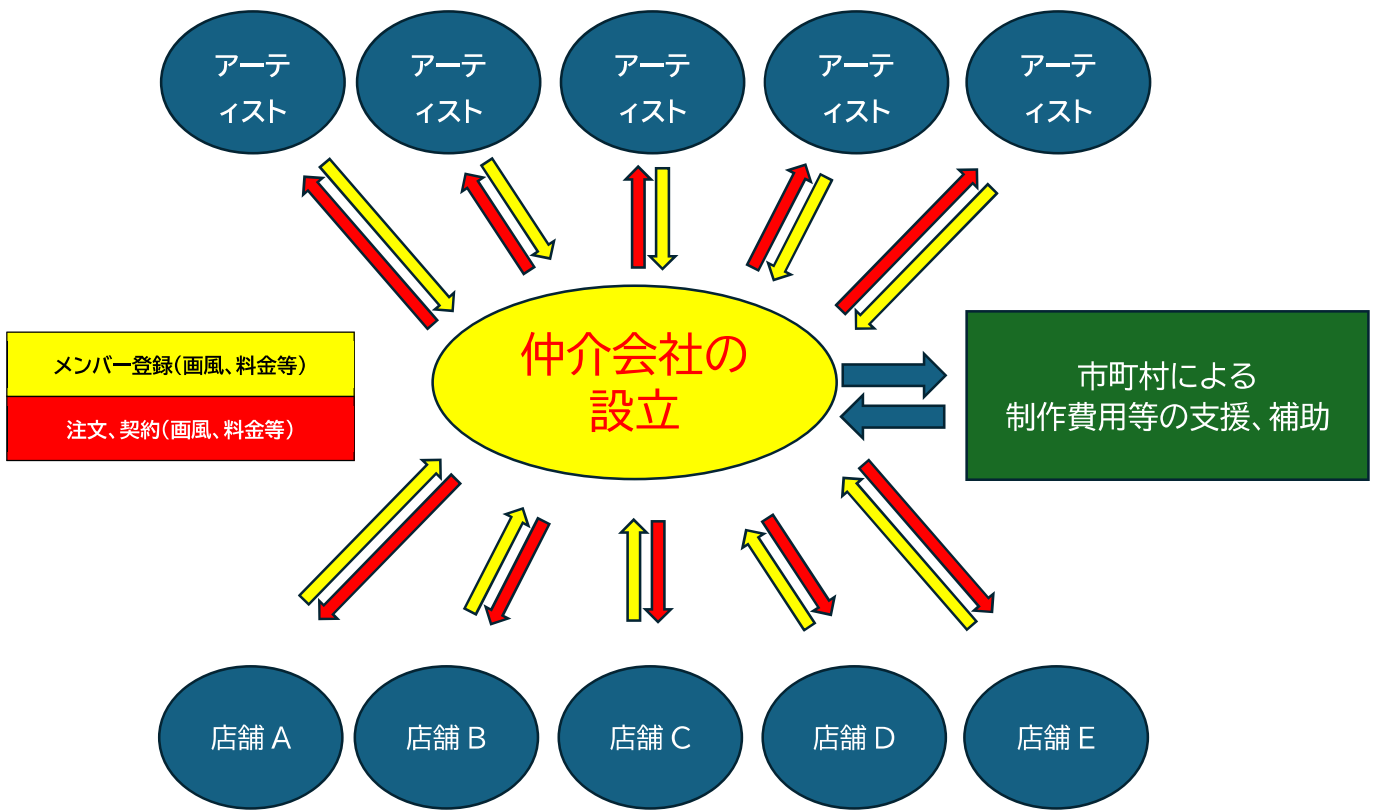


図 店舗とアーティストを結ぶ仲介会社イメージ

## 6 さいごに

大人としておおいに夢を語りましょう。それを実現する姿を子供たちに見せてあげましょう。昔の暮らしに戻ることは出来ませんが、昔と今の良いところを上手に調和させて、未来には持続可能な便利で人情味の残った「人が主役の街」をつくりたいと思います。

